

# 1年間 昨年7月～今年6月 の新規認定が167件に 道本部労災職業病部会が第4回幹事会

道本部労災職業病部会は7月4日に第4回幹事会を開きました。会議では、昨年7月から今年6月までの新規認定のとりくみについてまとめ、1年間で167件（振動障害・83／じん肺・15／アスベスト・1／騒音性難聴・47／その他・1／じん肺遺族補償・20）となりましたが、目標の200件には届きませんでした。新たに要療養となった組合員は74人（目標は100人）でした。

また、会議では1～4月の「健康相談会」後のとりくみや、トンネルじん肺根絶訴訟、新・北海道石炭じん肺「住石」訴訟、北海道建設アスベスト訴訟の状況について報告され、全国労災職業病部会総会（7月25～26日）の代議員を決めるとともに、8月21～22日に旭川で開催する道本部労災職業病部会総会を成功させることなどを確認しました。なお、釧路支部の佐藤さんが精神障害の労災請求の報復として会社から不当な損害賠償を求められた訴訟について、5月11日に最高裁で上告棄却の不当決定がされたことが報告されました。

## 函館 「相談会」通じ47人が受診、26人に診断書

函館支部は1～2月に13会場で開いた「健康相談会」に来た24人と、チラシを見るなどして事務所に来た16人から、6月までに合わせて64件の相談を受けました。相談内容は、振動障害・27件、じん肺・14件、アスベスト・5件、騒音性難聴・16件、その他・2件で、このうち振動障害・23人、じん肺・12人、アスベスト・3人、騒音性難聴・8人、その他・1人の合計47人（＝複数の疾病の人あり）が受診し、振動障害で13人、じん肺で6人、騒音性難聴で6人、その他で1人（合計26人）に診断書が出て労災申請の手続きをすすめています。函館支部は8月8～10日にも「夏の健康相談会」を道南の8会場で実施します。

## 明るい革新道政をつくる会が総会 市民と野党の共闘で新しい知事を

7月8日、「明るい革新道政をつくる会」の2018年度総会が開かれ、27団体・地域から36人が参加しました。総会でははじめに黒澤幸一代表世話人（道労連議長）が「知事選挙まであと9か月となり、明るい会として野党5党に共同を申し入れた。各党とも一様に『力を合わせたい』と答えており、道民共闘でたたかって新しい知事を誕生させよう」とあいさつし、日本共産党の佐野弘美道議会議員が道政報告をおこないました。小室正範事務局長の提案にもとづいて12人が発言し、地域での市民と野党の共闘が前進していること、子どもの貧困や高齢者の貧困など道民生活が高橋道政のもとで悪化している実態などが報告されました。黒澤代表世話人が「労働者・道民の困難を打開するために、市民と野党の共闘を前進させ、道民の未来を語る政策の一致をつくるのが大事だ。これまでの知事選挙でのとりくみを大きく前にすすめよう。10月には臨時総会（代表者会議）を開いて選挙闘争財政をふくめてさらに方針を具体化する」とまとめをおこない、満場一致で議案を確認しました。新年度役員には建交労から、森国委員長が世話人に、俵書記長が事務局次長に選任されました。